

### III 授業の実践例

#### 1 単元を通じた取組（第5・6学年の実践例）

- (1) 単元・教材名  
 筆者の考えの進め方をとらえ、自分の考えを発表しよう（教材名「見立てる」「生き物は円柱形」光村図書5年）  
 筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう（教材名「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」光村図書6年）
- (2) 単元の目標（第5学年）  
 ○ 筆者の考えと事例との関係を理解することができる。 〈知識及び技能〉  
 ○ 筆者の考えと事例の関係を基に文章構成を捉えて、要旨を把握することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉  
 ○ 筆者の考えや考えの進め方に関心をもち、自分なりの考えをもつことができる。 〈主体的に学習に取り組む態度〉
- (3) 実際

過程	主な学習活動（第5学年） 8時間
構造と内容の把握①	<b>1 単元のめあてと学習計画を立てる。</b> <b>〈単元のめあて〉</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           筆者の考えの進め方をとらえ、自分の考えを発表するには、どのように読めばよいだろうか。         </div> <b>〈単元終末の言語活動〉</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           「生き物は円柱形」を読んで、6年生に自分の考えを発表しよう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「見立てる」を読み、構成の大体をとらえる。</li> </ul> <p>※Which型課題Ⅰ（正しい構成図の選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提示された二つの文章構成から正しいものを選び、理由を明確にしながらかえる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           ○A①   ②・③④⑤   ⑥            ×B①   ②③・④⑤   ⑥         </div>
	精査・解釈①
構造と内容の把握②	<b>3 「生きものは円柱形」を読み、構成の大体を捉える。</b> （【①初】 - 【②～⑩中】 - 【⑩終】） <ul style="list-style-type: none"> <li>初めと終わりの役割について考える。</li> <li>難解語句や、読み取る上で重要な語句を調べ、意味を理解する。</li> </ul>
	<b>4 中を二つに分け、筆者がどのような構成で考えを進めているか捉える。</b> <p>※Which型課題Ⅱ（正しい構成図の選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提示された二つの文章構成から正しいものを選び、理由を明確にしながらかえる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           ×A①   ②③・④～⑩   ⑩            ○B①   ②～⑤・⑥～⑩   ⑩         </div>
精査・解釈①	<b>5 第4・5段落の文章全体における役割を捉える。</b>
形成①	<b>6 筆者が一番伝えなかったことを話し合い、要旨を百字程度でまとめる。</b>
共有②	<b>7 筆者の考えや、筆者の考えの進め方（「生き物は円柱形」）に対する自分の考えをまとめ、友達に発表する。</b> 〈思考力、判断力、表現力等〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の考えは、文章の「初め」や「終わり」に書かれていることが多い。</li> <li>「中」には、どのような事例や理由を挙げているか考えればよい。（反論）</li> <li>要旨をとらえて、自分の考え（共感・疑問）を明らかにすればよい。</li> </ul> </div>
	<b>8 筆者の考えや、筆者の考えの進め方（「生き物は円柱形」）に対する自分の考えを6年生に発表する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを振り返る。</li> </ul>

#### 【視点1】(1)-ア 課題解決の過程となる言語活動

「大きな力を出す」を読んで、わたしは、筆者の考えの中心が、えんかん考えずしている呼吸だが、呼吸を意識することで、筋肉は、より大きな力を出すことができる。というところに共感しました。

なぜかというと、筆者が事例であげていたように、自分たちも運動会での引きの時にみんな「せえの。」と声を合わせると、引くときに強く力を引いたような気がしたからです。

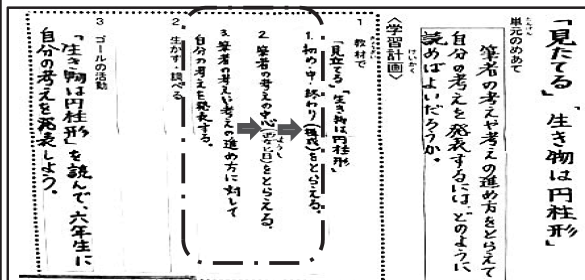
それは、ただひたすらタイミンが合っていないからだけだと思っていましたが、この本を読んで、ひたすら声を出して息をたくさんタイミンをそろえることで、一人一人の一番強い力を出せていたからなのだということが分かりました。

自分の考えの理由

筆者の考えに対する自分の考え

この単元では、筆者の考えや、筆者の考えの進め方に対する自分の考えを、6年生に発表する言語活動を設定した。このようにモデル文を提示することで、子供が「何を学ぶか」をより具体的にイメージできるようにした。

#### 【視点1】(1)-イ 単元を見通す学習計画表



子供たちに、自分の考えをモデル文のように発表させるために、学習計画表を用いて、ゴールから逆算して「何を学ぶか」を考えさせた。

- ① 筆者の考えや論の進め方に対して、自分の考えを発表する。
- ② 自分の考えをもつために、筆者の考えや考えの進め方を学ぶ。
- ③ ①のために、考えがどこに書かれているか、どのように文章が組み立てられているのか、構成を学ぶ。

また、毎時間学習計画表を確認させることで、本時の学習が単元全体のどの部分と関連があるかを意識しながら取り組ませた。

#### 【視点2】(2)-ア 言語活動での交流



異学年での交流を行うことで、相手意識を明確にした活動に取り組むことができるようにした。5年生には、自分たちの考えに対して6年生がどのように感じるのかという意識をもって取り組ませた。

6年生には、自分の考えを伝えるために、分かりやすい事例（ここでは、「心の時間」に対して共感できる事例）を挙げるなど、5年生を意識した発表を行うようにさせた。